

# 1人1台端末環境を基盤とした授業改善

笠岡市立笠岡小学校 5年

岡山県教育委員会  
教育情報化推進室

## 単元内自由進度学習で「教わる」から「学ぶ」へ児童の授業観を転換

笠岡市立笠岡小学校では、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して、主体的・対話的で深い学びを実現するため、単元内自由進度学習に取り組んでいます。どのように学ぶかを児童の意思で決めることを重要視し、1人1台端末を日常的に活用しながら「自己決定」「自己調整」を授業改善のキーワードとして進めています。

### 5年理科「魚のたんじょう」

単元の導入は、教科書の単元初めの見開きページを読み取って、問いをもつことからスタートします。それをもとに児童と教師で学習計画を立て、目標や学習の流れをまとめた「学習の手引き」は、Google Classroomで共有し、児童が自己調整しながら学習できるプラットフォームとし、学習進度に応じて先に進めることもできるように支援しています。また、顕微鏡等もいつでも活用できる環境を整えています。

各授業時間のめあては、探究的に学習できるように工夫されていて、例えば、メダカのオスとメスの特徴を調べる学習内容では「たまごを産むためにはどのように飼えばよいのだろう」と設定されています。児童は「何を調べるか?」「何をを使って学ぶか?」「1人で?友達と協働して?」など、どのように学ぶかを自己決定し、端末を活用しながら学習を進めます。



オスとメスの違いを詳しくまとめる児童



オスとメスの違いをまとめ、本物のメダカで確かめる児童



たまごを産む環境や産まれた後の育て方をまとめる児童



たまごの育ち方や観察の方法をまとめる児童

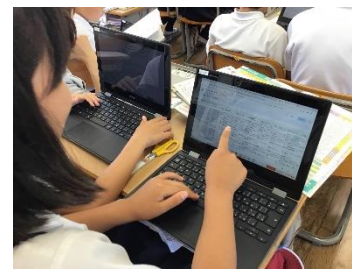
このように自己決定、自己調整しながら学ぶことで、本学級の児童は写真のとおり、教科書から「学ぶ取る」ことができる「自律的学習者」へ成長しています。ある児童は「教科書はとても分かりやすく書かれている」と言い、教科書の有用性を理解し、学び方を身に付けつつあることがうかがえます。

本実践の教師の役割は、児童の伴走者となり、個別支援が主な役割です。個々の児童の進捗状況はクラウド環境によって効率的に把握することができます。学校が新たに挑戦した「1人1台端末環境を基盤とした授業改善」で、「教わる」から「学ぶ」へ児童の授業観が大きく転換されています。

### 実践校の声

学習の「振り返り」も1人1台端末を活用して行います。これまで、Formsを使って取り組んでみたこともありましたが、「他者参照」「相互啓発」という授業改善の観点からは、同時に共有、編集できるスプレッドシートの活用が優位である手応えが得られました。

参考資料:文部科学省 StuDX Style Webサイト「振り返り活動で相互参照」  
<https://www.mext.go.jp/studxstyle/students/16.html>



共有された振り返りを読む児童